

コスモス 12月号

第72巻 第12号

◆宮柊二カレンダー（69）十二月の歌

美しき花かとも朱あけにきはまりしその葉を見れば
あはれ。ポンセチア
歌集『群鶏』

昭和13年1月号「多磨」が初出。前年11月、杏雲堂病院に入院した白秋を見舞った際の歌。白秋の秘書をしていた柊二は二十五歳。入院生活を楽しむ白秋の華やかな病室に咲く「ポンセチア」は、極限まで朱く色づいていた。花弁かと思われたそれが葉だと教えられた柊二は、「ポンセチア」を「あはれ」と見る。朱色を極めても花になれない哀しみは、明るく華やかで楽しげな白秋が与える無意識の圧迫に耐える柊二のつらさと同質なのかもしれない。

（久保田智栄子）